

科目名	物質工学専攻実験	英語科目名	Advanced Course Experiments
開講年度・学期	平成 21 年度・通年	対象学科・専攻・学年	物質工学科専攻科 1 年
授業形態	実験	必修 or 選択	必修
単位数	2 単位	単位種類	学修単位(45h)
担当教員	酒井 洋	居室(もしくは所属)	専攻科棟 5 階
電話	0285-20-2807	E-mail	sakai@oyama-ct.ac.jp
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 様々な測定機器の使用法を習得する。 データの解析法を理解する。 機器の構造や測定原理を学習する。 			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
<ol style="list-style-type: none"> 実験で得られたデータの正確さ、解析の方法が適正であるかどうか。 レポートの纏め方、結果に対する考察が適正であるかどうか。 設問への解答が適性に行なわれたか。 			
評価方法			
実験への態度、レポート(データの精度、解析法、まとめ方、設問への解答状況)から評価する。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 吸収スペクトルと分子構造 光化学反応 I 光化学反応 II ガスクロマトグラフィー 反応速度の温度効果 イオン定数の測定 蛍光分光法による励起一重項状態での分子間電子移動 			
キーワード	吸収スペクトル、分子構造、光化学反応、ガスクロマトグラフィー、反応速度、温度効果 イオン定数、蛍光分光法、励起一重項状態、分子間電子移動		
教科書	プリント配布		
参考書	鮫島實三郎著、「物理化学実験法(増補版)」裳華房(1977) 徳丸克己著「有機光化学反応論」東京化学同人(1973) 田中誠之著「機器分析(三訂版)」裳華房(1996)		
小山高専の教育方針 ~ との対応			
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(B-1) 実験や観察、調査、製作を自ら行い、データの採取や解析、考察を通して結論を導くことができること。			
JABEE 基準 1 の(1)との関係	d(2-b)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目			
現学年の関連科目			
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
予習：実験の授業の前にあらかじめテキストを読み、使用する機器について学習しておく。機器分析の教科書を参考書とする。 授業：テキストに従い実験を行う。実験装置の使用法に習熟する。 復習とレポート：実験で得られたデータの解析とレポートの作成、使用した装置の構成要素を研究・調査を行う。 <ol style="list-style-type: none"> クラスを 2 組に分け、物理化学系と無機化学系の実験を行い、後期に交代して実施する。 各クラスでは二人一組で一つのテーマを 2 週間かけて行い、翌週にレポートを提出する。 			
シラバス作成年月日	平成 21 年 3 月 31 日		